

# 事例報告

## 学生の学修状況調査に関する報告

### A Report on the Results of Student Learning Surveys

高橋勇一 岡崎英規 山口仁志

Yuichi Takahashi, Hideki Okazaki, Hitoshi Yamaguchi

#### Abstract

このレポートは、武蔵丘短期大学（以下「本学」という。）における学生の学修状況等について、機関研究（IR）推進室として調査した結果を報告するものである。本学の学生は、授業には出席して学習はするが、主体的・積極的に授業外学習を行うという点では課題がある。2020年度においては、コロナ禍の影響もあるが、スマートフォン（スマホ）等利用時間が増加し、睡眠時間が減少した。スマホ等利用による学習および就職活動もあるが、時間管理と合わせて健康管理が重要な課題である。また、GPAと授業外学習時間の関係については、時間をかけてしっかり予習・復習している学生のGPAが高いという妥当な結果となった。これらの調査結果を活かし、今後の教育改善に取り組むことが重要であろう。

キーワード：学修状況、授業外学習、時間管理、スマートフォン、GPA

## I はじめに

本学では、学生の学修時間をはじめ、学修状況に関する実態を把握するために、2018年度に調査を開始した。初年度は、教務委員会として、まずは学生の学修時間等を把握するためにアンケート調査を行った。次年度以降は、機関研究（IR）推進室として、学修状況等を把握し、「教育の成果と課題を検証し、その改善を図ること」を目的とする調査を実施した。ここでは、2019年度および2020年度に、機関研究（IR）推進室として行った学生の学修状況調査の結果について報告する。また、授業外学修時間とGPAの関係について分析を行った結果についても言及する。

## II 2019年度調査の結果について

2019年度の学修状況調査については、学生に「平均的な1週間の行動パターン」について、例を示して記載してもらう調査を行った（図1）。対象は、共通基幹科目の「健康の心理学」（1年生）及び「健康管理論」（2年生）の履修者とし、時期は2019年6月中旬（6月17日）の授業時間内に、健康教育・時間管理指導の一環として行った。有効回答数は、1年生が96名、2年生が80名であった。したがって、全学生（1年生118名、2年生142名）に対する回答率は、1年生が81.4%、2年生が56.3%であった。

この調査から、「1週間あたりの授業時間」「1週間あたりの授業外学習時間」「1週間あたりのアルバイト時間」「1日あたりの睡眠時間」「1日あたりのスマートフォン（スマホ）等使用（インターネット・SNS・You tube など）時間」について、集計した結果は次の通りであった。（1年生の調査結果を図2に、2年生の調査結果を図3に示す。）

「1週間あたりの授業時間」については、1年生は「26～30時間」が57%と最も多く、平日はほぼ毎日4.5～6時間（3～4コマ）の授業に出席している学生が多かった。一方、2年生は「16～21時間」が34%で最も多く、かなり絞って授業に出席していたといえる。また、「授業外学習」については個人差（解釈の違い）が大きく、1年生はある程度は授業外学習を行っていたが、2年生になると時間数が少ない学生が多かったという結果であった。なお、部活動・課外活動・家庭料理など、多くの学習要素を含むものを、この授業外学習にはカウントしていない学生が多かった。そして、「アルバイト時間」については、2年生になると、アルバイトを行う学生の割合及び時間数ともに増加している状況があった。

「1日あたりの睡眠時間」については、1・2年生ともに、「7～8時間」が37%と最も多く、その「±1時間」といったところで大半を占めていた。また、「1日あたりのスマホ等使用時間」については、1

学生の学修状況調査に関する報告

年生が「2~3時間」31%、「3~4時間」20%、2年生が「2~3時間」17%、「3~4時間」35%となっていた。「6時間以上」という回答も、1年生が12%、2年生が7%と少なからず見受けられた。このスマ

ホ等使用については、生活習慣の乱れや睡眠不足などを招く恐れがある一方で、教養・学習に関わること、キャリア・就職活動に関わることに時間を費やしている側面があったと考えられる。

※記入例 【学修状況調査】平均的な1週間の行動パターン  
 【 年 月 日 ~ 月 日 】 <調査目的>学修状況等を把握し、教育の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的とする。(IR推進室)

月日	月 日	火 日	水 日	木 日	金 日	土 日	月 日
6:00	睡眠						
7:00	起床						
8:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	起床
9:00	TV・SNS	TV・SNS	TV・SNS	TV・SNS	TV・SNS	TV・SNS	起床
10:00	準備	準備	準備	準備	準備	朝食	起床
11:00	登校	登校	登校	登校	登校		TV・SNS
12:00							朝食
1:00	授業	授業	授業	授業	授業	授業外学習	掃除
2:00						授業外学習	洗濯
3:00						授業外学習	洗濯
4:00						授業外学習	洗濯
5:00						授業外学習	洗濯
6:00						授業外学習	洗濯
7:00						授業外学習	洗濯
8:00						授業外学習	洗濯
9:00						授業外学習	洗濯
10:00						授業外学習	洗濯
11:00						授業外学習	洗濯
12:00						授業外学習	洗濯

月	授業外学習時間: 1.0 睡眠時間: 7.5 特記事項: 余裕をもって通学する	アルバイト時間: 0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
火	授業外学習時間: 3.0 睡眠時間: 7.5 特記事項: 図書館で勉強する	アルバイト時間: 0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
水	授業外学習時間: 1.0 睡眠時間: 7.5 特記事項:	アルバイト時間: 0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
木	授業外学習時間: 1.0 睡眠時間: 7.5 特記事項: アルバイト(研修あり)15:00~	アルバイト時間: 3.0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
金	授業外学習時間: 1.0 睡眠時間: 7.5 特記事項:	アルバイト時間: 0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
土	授業外学習時間: 3.0 睡眠時間: 7.5 特記事項: レポート課題を仕上げる	アルバイト時間: 3.0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.0
日	授業外学習時間: 2.0 睡眠時間: 9.0 特記事項: 例)試合/コンサートへ行く/野球観戦	アルバイト時間: 0 スマホ等使用(インターネット・SNS・You tube動画含む)時間: 1.5

健康( )専攻 学籍番号( ) 氏名( )

図1 「平均的な1週間の行動パターン」の記入例

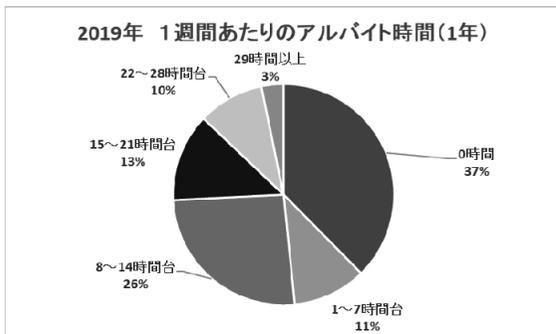
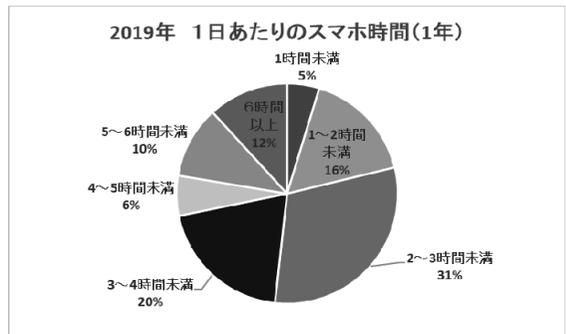
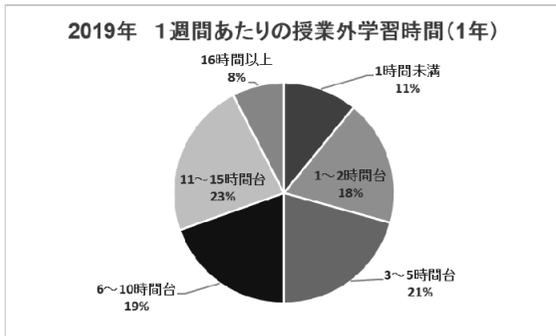
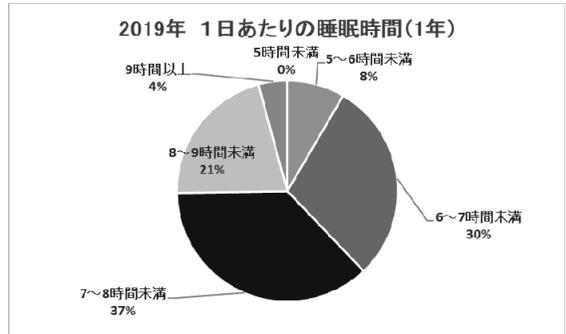
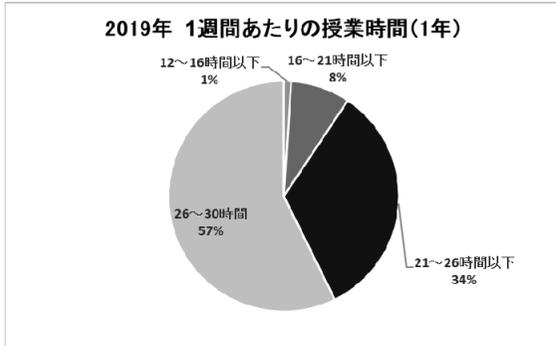


図2 2019年度 1年生の学修状況調査の結果

学生の学修状況調査に関する報告

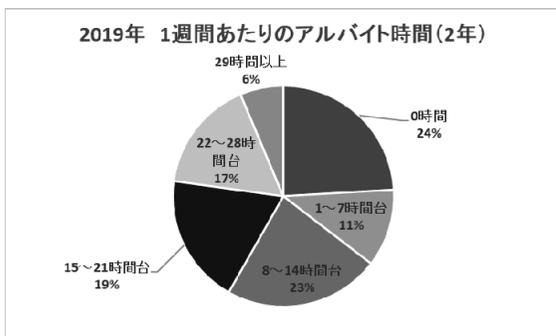
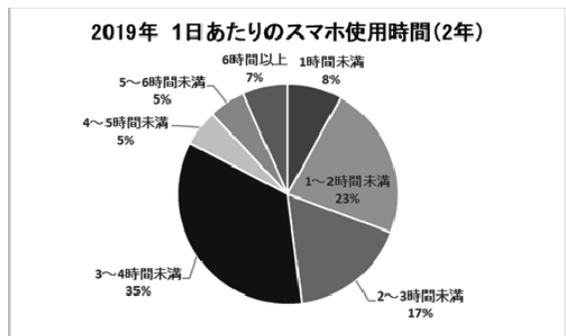
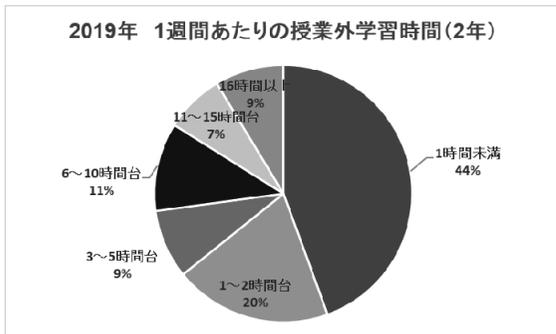
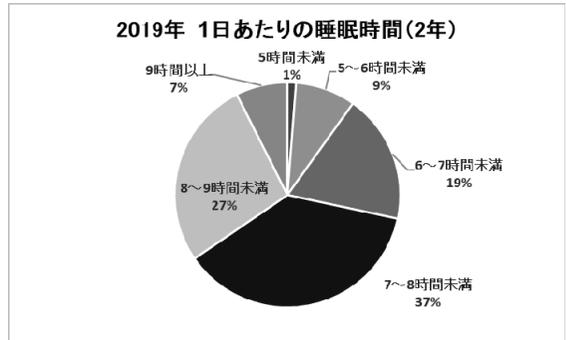
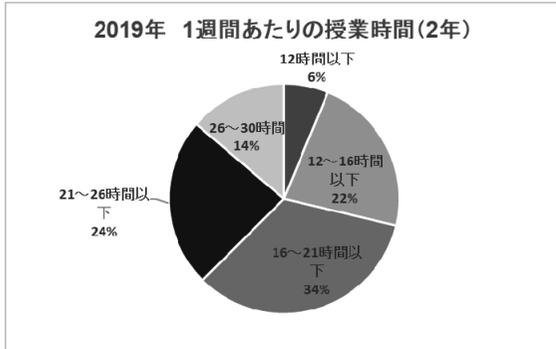


図3 2019年度 2年生の学修状況調査の結果

### Ⅲ 2020年度調査の結果について

2020年度の学修状況調査も、「平均的な1週間の行動パターン」について、昨年と同様に調査を実施した。対象は、共通基幹科目の「健康の心理学」(1年生)及び「健康管理論」(2年生)の履修者とし、時期は2020年7月下旬の授業時間内に、健康教育・時間管理指導の一環として行った。

有効回答数は、1年生が141名、2年生が57名であった。したがって、全学生(1年生163名、2年生113名)に対する回答率は、1年生が86.5%、2年生が50.4%であった。

この調査から、「1週間あたりの授業時間」「1週間あたりの授業外学習時間」「1週間あたりのアルバイト時間」「1日あたりの睡眠時間」「1日あたりのスマホ等使用(インターネット・SNS・You tubeなど)時間」について、集計した結果は次の通りであった。(1年生の調査結果を図4に、2年生の調査結果を図5に示す。)

「1週間あたりの授業時間」については、1年生は「21～26時間」が53%と最も多く、昨年度より授業時間数が減少している。これは、新型コロナウイルスの感染予防対策により、実技・実習系の科目を後学期に移行したことが主な原因であると考えられる。2年生は、昨年度と同様に個人差が大きく、授業時間数のばらつきがあることがわかる。また、「授業外学習」については、1年生はある程度は授業外学習を行っているが、2年生になると時間数が少ない学生が多い。今年度は、遠隔授業の実施により、1年生については「調べ学習」の時間が多くなったことも考えられる。2年生は、授業時間内に済ませ、要領よく勉強したということも考えられる。そして、「アルバイト時間」については、昨年度と同様に、2年生において、アルバイトを行う学生の割合及び時間数がともに増加している状況である。

「1日あたりの睡眠時間」については、1・2年生ともに、「6～7時間」が最も多く、その「±1時間」といったところで大半を占める。昨年度より、睡眠時間は減少しており、コロナ禍による影響もあるものと考えられる。また、「1日あたりのスマホ等使用時間」については、1年生が「2～3時間」28%、「3～4時間」28%、2年生が「2～3時間」33%、「3～4時間」28%となっている。「6時間以上」という

回答も、1年生が13%、2年生が14%と多く見受けられる。このスマホ等使用については、生活習慣の乱れや睡眠不足などを招く恐れがある一方で、学生の興味・関心をひく情報も充実しており、自己管理の上に有効活用することが望まれる。

なお、このような学修状況調査の実施が、学生の意識改革および行動改善につながるといった効果があるものと考えられる。このことは、学生の次のようなコメントからも確かめることができる。

#### 【学生のコメント】

- ・1週間の行動パターンを振り返ってみて、夜中に何もしていない時間が多いことに気づいた。もう少し勉強の時間に変えていけるように意識し直していこうと思った。
- ・今回の授業(調査)を受けて、もっと自分の生活習慣を見直そうと思った。
- ・私は寝ることとYou tubeを見るのが好きなので、基本的にその時間が多い。寝る時間は削ることができないので、You tubeの時間を減らしたいと思った。また、テレビ・スマホを見ながらではなく、勉強だけに集中する時間を持ちたいと思った。
- ・1週間の行動パターンを振り返ると、土日はアルバイトで自由時間が少ないと感じた。課題や学習については、もっと計画的にやりたいと思った。
- ・自分の行動を表にしてながめることで、今までの習慣を見直し、健康的で無駄のない生活につながると感じた。今度、もっと詳細の表を作成し、生活を改善していきたい。
- ・行動パターンを書き出すことによって、自分の生活を見直すことができたので良かった・健康に留意して生活したいと思った。
- ・1週間の行動パターンを図にしてみると、想像以上にSNSやテレビの時間が多く、もったいないと感じた。その時間を自主学習の時間にあてたいと思う。
- ・1週間の行動を振り返ると、やはり空き時間にスマホを使っていることが多いと感じた。今回を機に、生活スケジュールを見直していきたいと思う。
- ・自分の1週間の行動をまとめてみると、もっと時間を上手に活用できるのではないかと思った。貴重な時間を、計画的により充実したものに変えていきたい。

学生の学修状況調査に関する報告

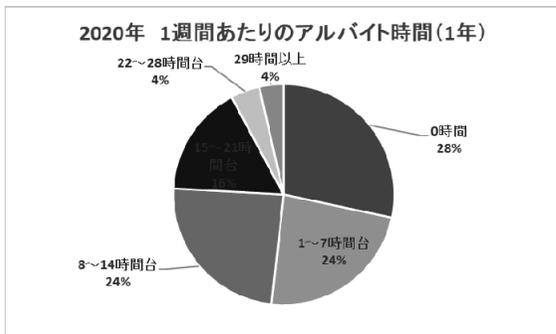
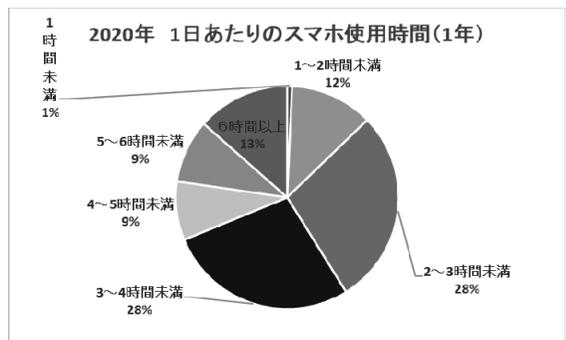
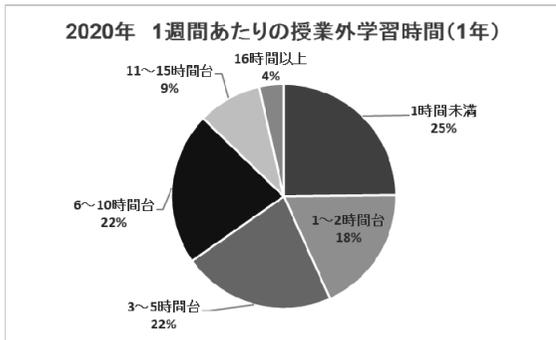
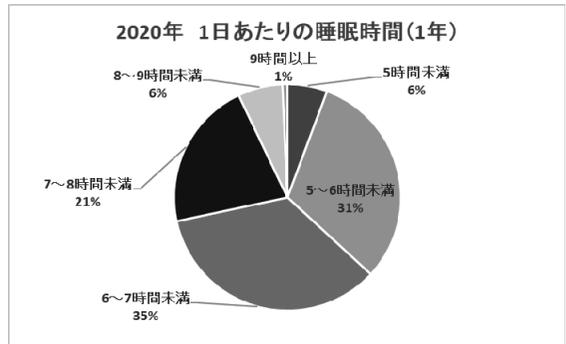
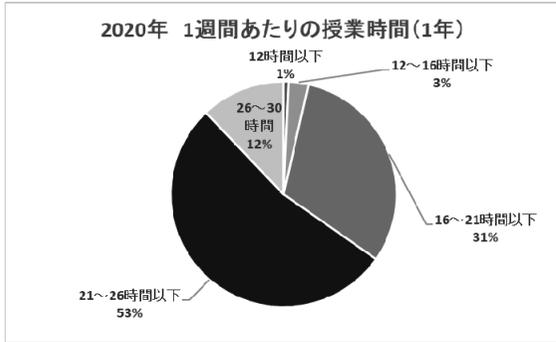


図4 2020年度 1年生の学修状況調査の結果

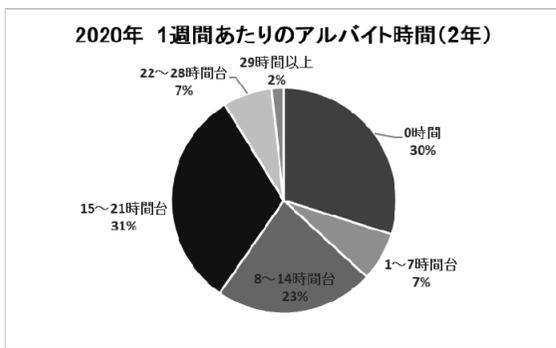
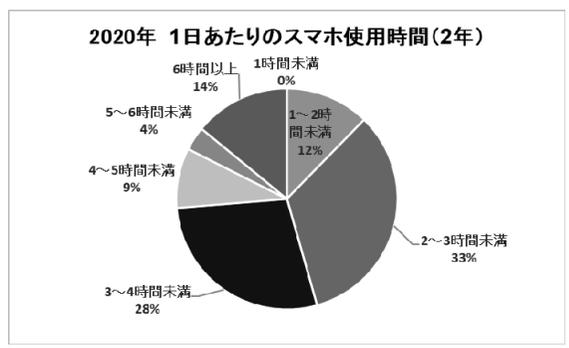
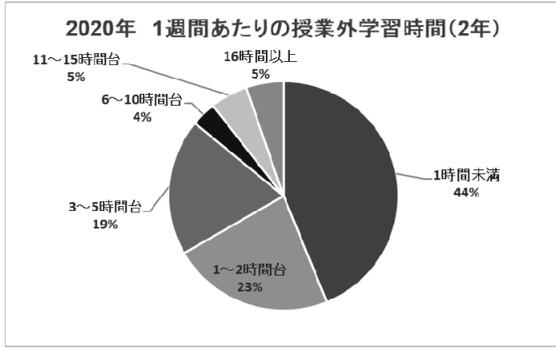
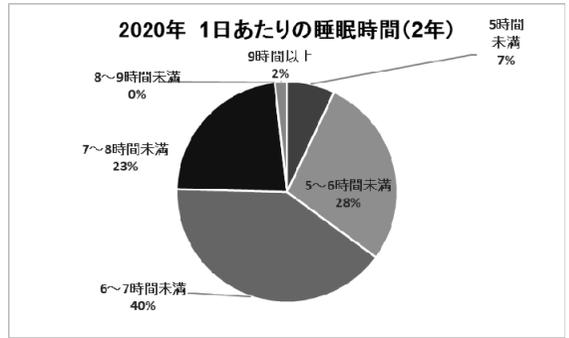
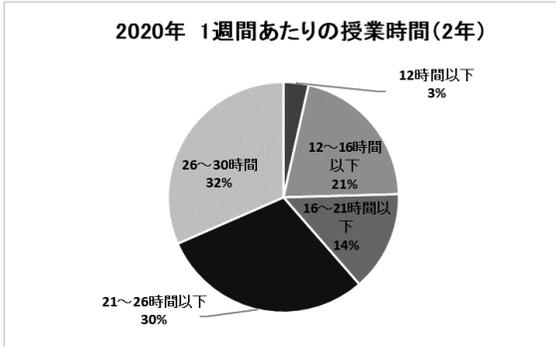


図5 2020年度 2年生の学修状況調査の結果

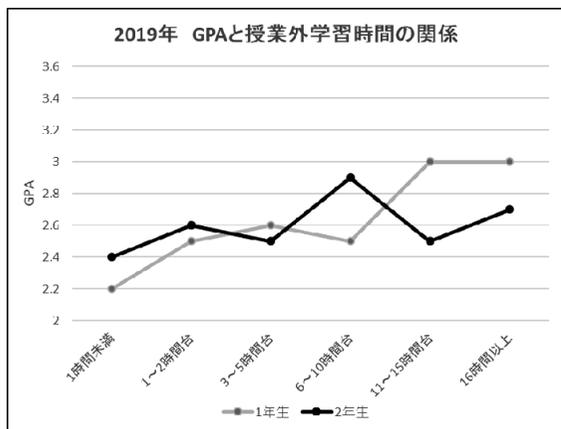


図6 2019年度におけるGPAと授業外学習時間の関係

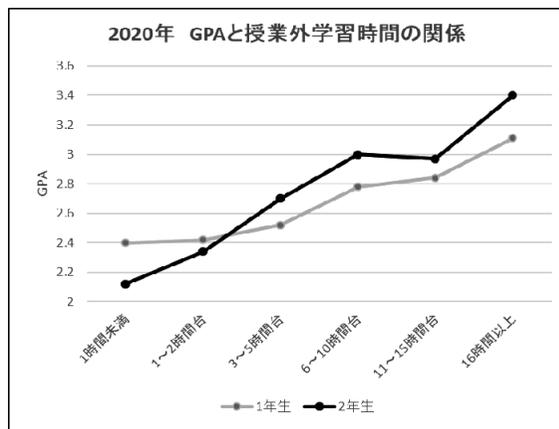


図7 2020年度におけるGPAと授業外学習時間の関係

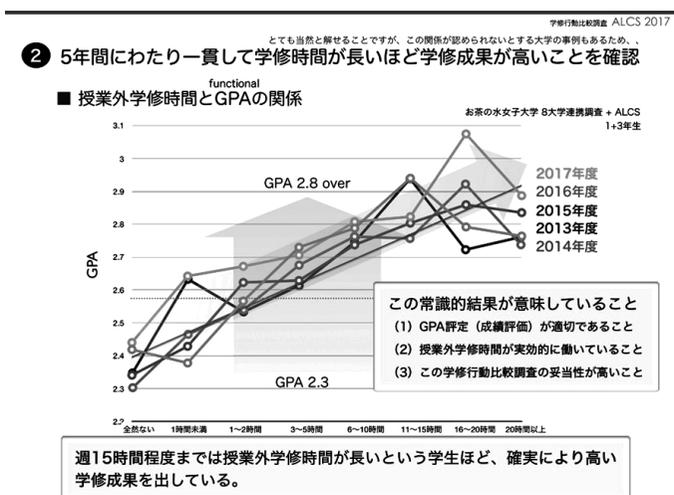


図8 お茶の水女子大学等における授業外学修時間とGPAの関係<sup>1)</sup>

#### IV GPAと学習時間の関係について

「1週間あたりの授業外学習」(2019年6月調査)とGPA(2019年10月の累積GPA)の関係、そして、「1週間あたりの授業外学習」(2020年7月調査)とGPA(2020年10月の累積GPA)の関係について、分析を行ったところ、図6・図7のように、「授業外学習時間が多い学生は、GPAが高い」という常識的かつ妥当な結果を得た。2019年度の2年生については、明確な相関関係ではないが、それ以外はすべて相関関係が高い常識的な結果といえる。

この常識的な結果について、お茶の水女子大学の教学IR・教育開発・学修支援センターでは、次のように捉えている<sup>1)</sup>(図8)。

- (1) GPA評定(成績評価)が適切であること
- (2) 授業外学修時間が実効的に働いていること
- (3) この学修行動比較調査の妥当性が高いこと

本学においても、一般に、学習時間が長いほど学習成果が高いことを確認した。今後、時間管理の重要性とあわせて、この「努力は裏切らない」あるいは「努力は報われる」という結果について、学生指導に活用していくべきであると考えます。

#### 【引用・参考文献】

- 1) お茶の水女子大学のIR 教学評価: 学修行動比較調査2017  
<https://crdeg5.cf.ocha.ac.jp/crdeSite/ir17kyo2.html> 2020年10月22日閲覧